

# 日本神経内分泌学会 評議員会・総会 議事録

日 時：2013年10月25日（金）13：55～14：45

場 所：宮崎市民プラザ オルブライトホール（第一会場）

議題：

1. 理事長提言－神経内分泌学会活性化に向けて
2. 内規等改正の件（評議員申請条件について、若手研究助成金の名称変更について）  
（報告事項）
3. 2012年度庶務報告の件（報告事項）
4. 2012年度決算報告、2013年度見込み、および2014年度予算の件  
（審議事項）
5. 2015年度学術集会会長の件（審議事項）
6. 名誉会員、功労評議員の件（審議事項）
7. 評議員再任、新評議員の件（審議事項）
8. 特別功労賞、学会賞、川上賞、若手研究助成金の件（審議／報告事項）
9. 若手研究奨励賞の件（報告事項）
10. Newsletter 発行の件（報告事項）
11. 第41回学術集会の準備状況について（報告事項）
12. その他
  - 会費長期滞納者の件（報告事項）
  - ICN2014 プレシンポジウムの提案（審議事項）
  - 国際神経内分泌連盟（INF）の件（報告事項）
  - 脳科学関連学会連合について（報告事項）
  - 役員選挙の予告
  - その他

評議員会・総会の開会にあたって大磯理事長より出席人数の確認があり、定款第20条及び第25条の定足数（評議員会64名、総会173名）を満たす出席者（評議員会73名、総会235名、委任状を含む）があることから、本評議員会・総会は成立する旨の報告があった。

引き続き定款23条により、中里学術集会会長が議長に選出され、中里会長の司会により議事が行われた。

## 1. 理事長提言－日本神経内分泌学会活性化に向けて

大磯理事長から、日本神経内分泌学会学術集会は今回で40回目となり、また最近の学問・社会の流れは非常に早く、日本神経内分泌学会も曲がり角にあるとの見解から、3つの課題の提起（提言）があった。まず、「学会の Identity の確立」が重要であることから、基盤が広くフォーカスを絞りにくい本学会の学術集会において、プログラムの連続性を保つためプログラム委員会を立ち上げて、魅力ある学術集会とするため努力している。次に、「学会運営体制の強化」に取り組んでおり、その一つとしていろいろな問題を常務理事会で討議し迅速な意思決定と財政的な整備を考えている。三つ目に「対外連携」を積極的に行い、海外の神経内分泌学会との学術交流あるいは国内の関連学会や（間脳下垂体調査研究班のような）公的な研究体制とさらに密接な協力体制を構築していきたい、とのことであった。「生体機能のプラットフォームから旅立って、未知なる神経ホルモンネットワークへ」を目指したい、とのことであった。

議長からも、本件については引き続き理事長・常務理事・理事の中で議論していくので、評議員・会員各位からも忌憚のない意見をいただきたい、とのコメントがあった。

## 2. 内規等改正の件（報告事項）

島津庶務常務理事より、「評議員申請条件」及び「若手研究助成金の名称変更」について、下記の要約の通り理事会で承認されたとの報告があった。

### 【評議員選考内規の改正の要約】

これまでの会員歴が、基礎部門で3年以上、臨床部門で5年以上となっていたところを、部門を問わず一律3年以上となった。

### 【若手研究助成金制度の規程及び関連内規の改正の要約】

日本脳神経財団からの助成が終了することから、規程を見直し広く援助を集めて本研究助成金を継続するため、冠（個人名あるいは企業名）付き研究助成金を可能とするように改正した。また、助成金受領者数はこれまでの2名から原則1名となった。

上記規程の改正に伴う人数の変更（原則1名に変更）及び、多数の応募者を予想して規定された選考方法等の内規の記載を、現状に合わせて簡略な記述に改めた。

## 3. 2012年度庶務報告の件（報告事項）

島津庶務担当筆頭理事より、2012年度の庶務報告があり、2012年度の新入会員は22名で2012年度末の会員数は515名である。2013年度も現在までに23名の入会があった。また、第39回学術集会（北九州）、評議員会・総会（同）、理事会（同）、会誌発行等の2012年度の事業報告が行われた。

#### 4. 2012 年度決算報告、2013 年度見込み、および 2014 年度予算の件 (審議事項)

岩崎会計担当常務理事より、2012 年度収支決算が報告された。収入の部では、正会員・賛助会員ともに予算（予想）を上回る納入があった。支出については、若手研究助成金が 2 名の予算のところ 1 名のみであったこと、管理費等をできるだけ削減したこと、などから予算を下回った。最終的には、2012 年度決算は当初の大幅な赤字予想からわずかな赤字ですんだ。また、第 39 回学術集会の会計についても報告があった。

前多監事から、両決算は適正に執行されていることを確認した、との報告があった。

特に質問はなく、この 2012 年度の決算は満場一致で承認された。

続いて、岩崎常務理事より 2013 年度収支見込及び 2014 年度予算について説明があった。2013 年度収支見込については、常務理事を中心に開拓中の新たな財源（賛助会員の新規入会、既会員の会費口数の増加等）による収入の増加が見込まれるものの、数年毎にまとめて作る特別功労賞ブロンズ像の発注等の支出の増加があるため、当初よりは少し減るものの、やや大きな赤字予想となっている。

2014 年度予算については、日本脳神経財団からの助成が終わることから収入は大幅に減少する。支出については、企業からの冠付きの助成が得られる予定でその負担（支出）は 2014 年度からなくなる（学術集会収支に計上の予定）が、国際学会との連携に伴う支出の増加があり依然として大幅な赤字予想となる。さらに会員・賛助会員の増加を図り、収入を増やす努力が必要である、とのことであった。

2013 年度決算見込み及び 2014 年度予算も異議なく承認された。

#### 5. 2015 年度学術集会会長の件（審議事項）

大磯理事長から、前日の理事会で 2015 年度学術集会の会長に井樋慶一教授（東北大学）を選出したと報告があり、満場一致で承認された。

#### 6. 名誉会員、功労評議員の件（審議事項）

島津庶務担当常務理事より、本年度は名誉会員の該当者はいない、との報告があった。

続いて島津常務理事より前日の理事会で、加藤昌克評議員（東京医療学院大学、教授）、小笹宏評議員（滋賀県赤十字血液センター、所長）、阿部廣己評議員（兵庫県立姫路循環器病センター、内科部長）、村上治評議員（早坂愛生会病院）、三木伸泰評議員（東京女子医科大学病院）、新見道夫評議員（香川県立保健医療大学、教授）の 6 名を功労評議員に推薦したいとの説明があり、満場一致で承認された。

#### 7. 評議員再任、新評議員の件（審議事項）

島津庶務担当常務理事より評議員の再任（再任評議員任期：2013 年総会日～2017 年総会

日) について説明があり、以下の 25 名の評議員の再任が満場一致で承認された。

新井 桂子	在原 善英	有馬 寛	石井 新哉	乾 明夫
井上 達秀	上田 陽一	臼井 健	大磯 ユタカ	大畠 久幸
沖 隆	坂本 長逸	佐藤 文俊	関屋 健策	竹井 祥郎
田中 雅樹	中里 雅光	西原 真杉	堀田 眞理	牧野 晋也
南 史朗	村瀬 孝司	山田 正信	山本 繁樹	由利 和也

さらに島津庶務担当常任理事より以下の 6 名の新評議員について説明があり、全員の評議員就任が満場一致で承認された。

氏名 (申請順)	所属	備考
みのこし やすひこ 箕越 靖彦	生理学研究所 生殖・内分泌系発達機構	基礎
おおつか ふみお 大塚 文男	岡山大学大学院 医歯薬学研究科総合内科学	臨床
まつの あきら 松野 彰	帝京大学ちば総合医療センター 脳神経外科	臨床
いじま のりお 飯島 典生	日本医科大学大学院 解剖学・神経生物学分野	基礎
いしい ひろたか 石井 寛高	日本医科大学大学院 解剖学・神経生物学分野	基礎
すぎむら よしひさ 楢村 益久	名古屋大学医学部 附属病院	臨床

## 8. 特別功労賞、川上賞、若手研究助成金の件（審議／報告事項）

中里会長（特別功労賞選考委員長）より、特別功労賞選考委員会（持ち回り審議）の結果、松尾壽之名誉会員（国立循環器病研究センター 名誉研究所長）及び井村裕夫名誉会員（第 9 回会長・幹事を歴任、京都大学名誉教授）を特別功労賞受賞者に選考したとの報告があり、満場一致で承認された。

続いて、河田光博理事（第 6 回川上賞、第 32 回会長、理事・監事を歴任、京都府立医科大学、教授）を学会賞受賞者に決定したとの報告があった。

また中里会長（川上賞選考委員長）より、松田賢一会員（京都府立医科大学）を川上賞受賞者に決定したとの報告があった。

さらに中里会長（若手研究助成金選考委員長）より、桑原（島津）智子会員（京都大学）

の「鎖長や飽和度の異なる脂肪酸の摂食調節における影響の解明」と、藤原広明会員（産業医科大学）の「蛍光タンパク遺伝子導入ラットの室傍核でのストレス反応の可視化と生理機能解明」の研究に、若手研究助成金を授与することに決定したとの報告があった。

## 9. 若手研究奨励賞の件（報告事項）

中里会長（YIA 選考委員長）より、本年 12 件の応募があり、先ほどの選考口演が終わり、この後の選考委員会で 3 名以内の受賞者を選出する、との説明があった。

（なお、評議員会・総会後の選考の結果、堀井謹子会員（奈良県立医科大学）、清田篤志会員（名古屋大学）、谷内秀輔会員（広島大学）の 3 名が受賞者に選出された）

## 10. Newsletter 発行の件（報告事項）

上田企画広報担当常務理事から、Newsletter No.18 を予定通り発行したこと、次の No. 19 は、今回の第 40 回学術集会の内容報告を中心に 2013 年 12 月に発行の予定との報告があった。

## 11. 第 41 回学術集会の準備状況（報告事項）

第 41 回会長の岩崎理事より、第 41 回学術集会の概要について、「神経内分泌のすべてを知る（神経内分泌はこんなに面白い）」をテーマとして、2014 年 10 月 31 日（金）午後～11 月 2 日（日）（同日午後合同シンポジウム）に都道府県会館（東京都千代田区）で、日本内分泌病理学会、日本ステロイド学会と「内分泌学ウィーク 2014」としてリレー開催するとの紹介があった。現在プログラム委員会等で（特に若い人に）魅力的なプログラムを検討中である、とのことであった。

## 12. その他

### ■ 会費長期滞納者の件（報告事項）

島津庶務担当常務理事より、2012 年度末までの 3 年間の滞納者 10 名があり、事務局から再度会費納入をお願いするが本年度末までに会費納入がないときは自然退会（会費納入のあった最終年度で退会処理）とする、との報告があった。

### ■ ICN2014 プレシンポジウムの提案（審議事項）

上田常務理事から、ICN2014（2014 年 8 月 17 日～20 日、シドニー）について説明があった。ICN2014 は予算が大変厳しく、会期も 3 日半と圧縮されている。日本神経内分泌学会でアジア・オセアニアの若手を中心としたプレシンポジウムを企画し、そのサポートとして来年度予算に 25 万円を計上したい、とのことであった。本提案について、満場一意で承認された。

## ■ 国際神経内分泌連盟（INF）の件

上田常務理事から、2013年7月23日バーミンガム(英国)で開催されたINF Council meetingに大磯理事長の代理として出席し、来年のICN2014も現執行部のままで行くことになったこと、参加者数・財政状況が心配され、日本からの参加が大変期待されている、との報告があった。

## ■ 脳科学関連学会連合について

上田常務理事から、2013年7月4日慶應義塾大学で開催された脳科学関連学会連合評議員会で同学会連合からの提言について討議され、現在「精神神経疾患克服へ向けた研究推進の提言」等が公表されている、との報告があった。

## ■ 役員選挙の予告

島津庶務担当常務理事より、来年の総会で現在の理事の任期が終了となるので、本年末～来年初めくらいに評議員による役員選挙を行う予定である。選挙方法は従来通りであるが、今回から選挙で選ばれた理事は2年の任期を原則2期続けることになる、とのアナウンスがあった。

## 13 ご挨拶など、

### ■ 第42回学術集会について

第42回学術集会会長に決まった井樋次々期会長から、学会の活性化を図り次世代に引き継いでいく、との思いで開催したい。先生方のご支援をお願いする、との挨拶があった。

### ■ 第40回学術集会開催に当たって

中里会長より、天候も回復し盛会の様子で、先生方のおかげと感謝している、存分に楽しんでほしい、との挨拶があった。

(理事長、各常務理事 校閲済)